

■ 令和5年度 第6回西区自治協議会

日時：令和5年10月31日（火）午後3時00分

会場：西区役所健康センター棟1階 大会議室

（司 会）

皆様本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第4回目になります西区自治協議会を開催いたします。

本日の出席委員は29名の予定であり、新潟市区自治協議会条例第9条第2項の規定を満たしておりますので、本日の会議が成立していることを報告いたします。

なお、本日の会議につきましては、議事録の公表に当たり、正確性を期すため、会議の内容を録音させていただきますことをご了承いただき、またご発言の際には、所属とお名前をお知らせいただきたいことをお願いさせていただきます。

それでは資料の確認をいたします。事前に配付いたしました資料は、次第と資料1から資料7になります。本日、資料をお持ちでない方はいらっしゃいませんか。

次に、本日配付しました資料についてです。まず一番上が座席表となっております。その次に2枚目から幼児教育シンポジウムのチラシ、3枚目に西区の小正月に行うイベントについて(情報提供のお願い)、そして、その次が11月18日の防災講演会のチラシ、その他各種事業のチラシとなっております。資料の確認は以上となります。

次に議事に入る前に、西区自治協議会に出席しております朝妻副市長から皆様にご挨拶申し上げます。

（朝妻副市長）

皆さん大変お疲れ様でございます。日頃から自治協議会の活動にご尽力いただきまして大変ありがとうございます。改めてお礼申し上げます。今年はお案内の通り新潟市の新しい総合計画が始まる年でございました。

人口減少という大きな流れに抗うのはなかなか難しいものがあるということでございますけれども、将来を見据えて今何をすべきかという観点でまとめたものでございます。いたずらに右肩下がり意識することなく、実現可能な最大値を目指していきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

ご案内の通り国ではですね、臨時国会で経済政策の議論が進められております。もう少ししますとその全体像が明らかになると思いますけれども、これにつきましては12月の市議会の定例会の方に補正予算を上げさせていただいて、対応したいというふうに考えておりますし、年内には少子化対策、子育て支援の全体像がまとまるということになっておりますが、こちらについては新年度予算での対応なりとなると思いますけれども、双方ともですねしっかりと対応していきたいというふうに思います。

今日の議事の中に令和6年度特色ある区づくり事業の項目がございますけれども、新年度予算のですね作業が進んでおりますが、これまでのようなコロナ禍の影響大というものから抜け出しているかなと思いますけれども、物価高騰が続いているというような厳しい環境がございますので、しっかりと議論をして皆さんのご意見を伺いながらですね、予算があるように準備を進めてまいりたいというふうに思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

はい、ありがとうございました。

本日の次第の6番にあります副市長との意見交換としまして、後ほど時間を設けさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

それではこれ以降の議事進行につきましては会長にお願いいたします。

(大谷会長)

それでは議事に入りたいと思います。

(1) 委員の失職に伴う後任委員の推薦についてであります。委員推薦会議岩沢座長より説明をお願いいたします。

(岩沢座長)

岩沢でございます。それでは、資料1を見ていただきたいのですが、それでは私の方から説明させていただきます。

先月、大野校区ふれあい協議会より選出された田邊正平委員が逝去されました。任期途中で委員に欠員が生じた場合の後任委員の推薦について、前任委員と同じ団体へ推薦依頼をかけることについて既に座長専決事項として、ご承認いただいておりますので、本日は団体へ推薦依頼をし、推薦いただいた委員についてご報告いたします。

大野校区ふれあい協議会からは、笹川裕子様を推薦いただきました。区自治協議会委員は、区自治協議会が区長に推薦し、その後区長が市長へ推薦し、市長が委嘱することとなりますので、本日この場においてご報告致します。

なお、任期途中で交代となりますので、任期は前任者の残任期間を引き継ぐこととなりますので、令和7年3月31日まで、所属部会は前任委員の通常部会を引き継ぐこととします。第2部会となります。後任委員の詳細については、別紙をご覧ください。

私からは以上でございます。

(大谷会長)

はい、ありがとうございました。なお、新しく委員になられました笹川委員は本日欠席のため、委嘱状の交付は省略させていただきます。

続きまして議事の(2)令和6年度特色ある区づくり事業区役所企画事業に進む前に、各部会で話し合われました区役所企画事業に対する意見を各部長から報告していただきたいと思います。

そのために、議事の(2)の前に、次第の4報告事項の(1)部会の状況報告についても会議概要と併せて、区役所企画事業案に対する部会としての意見の報告をお願いしたいと思います。

それでは第1部会岩沢部長お願いいたします。

(岩沢部長)

説明させていただきます。資料3を見ていただけませんか。第1部会は第7回の会議がありました。10月5日に開催し、出欠につきましては下記のとおりです。

主な議事として、令和5年度に取り組む環境美化事業として、大きく分けると団体向けのパートナー制度、それからもう一つは個人向けにピリカを実施しております、

まず最初に、パートナー制度について話を進めたいと思います。昨年度はですね、おかげさまで16団体の参加がありました。ちなみに今年度は、検討中を含めて23団体が参加していただいております。参加団体をさらに増やしておりますが、コミ協の参加としては、15コミ協中6団体は参加していただいております、もう9団体の参加をお願いしたいというふうに考えているところです。

先般、10月の14日第2土曜日にスマイルストーリー様と協働で海岸の方でゴミ拾いを行いました。私ども第1部会の参加は8名ほどでありました。

これはですね、大変嬉しかったのは若者100人会議という、若い人、大学生も参加しておりました。これは大変うれしいことです。

また、10月28日(土)に開催する「ふれあい・あきまつり」にブースを設け、展開中の「あなたもできます#西区をきれいに」を周知すること

を確認しました。当日は事務局のサポートもあり、ピリカの登録者を15名ほど増やすことができました。

来年度の自治協提案事業について議論を行いました。令和6年度に第1部会が取り組む自治協議会提案事業について、今年度取り組んだ「環境美化」に継続して取り組むか、他の地域課題の解決に取り組むのか意見交換を行いました。

委員から出た意見としては、犯罪に対しての注意喚起など防犯をテーマに取り組んでどうか。防犯カードの作成や、県警と連携して講演や研修を実施し、知識を習得しても良いのではないかと感じる。防災について、地域で見える化や標示化ができていないと感じる。ハザードマップの周知など防災をテーマに取り組んでどうか。といった意見がでましたが、防災については、全委員に関わる重要な地域課題であるため、部会の枠を超えて西区自治協全体として取り組んでいる実情も踏まえ、引き続き議論を行うこととしました。

次回につきましては11月7日3時からです。ありがとうございました。

(大谷会長)

続いて第2部会、山岸部会長お願いいたします。

(山岸部会長)

引き続きその次のページをご覧ください2部会が第7回の会議を10月5日木曜日午後1時から1時50分まで行いました。出席委員は記載の通りです。

この日は挨拶の第1回目、10月25日の詳細について決めました。寺尾駅で時間は午前7時から8時。参加者の駐車場は坂井輪公民館ということです。広報媒体のデザインを決定し、それから近隣コミュニティ協議会への運動の参加依頼も事務局の方からいただきました。

もう既にこれは開催していて、当日は水野区長が来てくださり、さらに地域のコミュニティ協議会からもが参加して下さって、挨拶運動を展開しましたが、事業の委員だけではなくて地域の地元の人たちも参加したことで、顔の見える挨拶運動が非常によくできたんじゃないかなと感じています。この繋がりが西から西区全体そして市内全体に広がっていった支え合いのきっかけ作りになればいいかなと感じています。

今後も月に1回、11月12月にやる予定なので皆さんもぜひご参加いただけたら幸いです。

それから2番目に支え合いの仕組み作り会議の構成員の推薦について部会で検討しました。ただ前回が副会長さんが出ているということだったので、私の方で出ることにいたしました。

それから3番目です。令和6年度特色ある区づくり予算区役所企画事業案についての意見です。

事業番号10番西区スポーツスマイルプロジェクトについてです。

委員さんからの主な意見です。野球や卓球など話題性のあるスポーツも対象とするのがいいのではないかと。それから事業評価基準がどうしても参加人数となってしまうことが多くて、そうすると、競技人口が多い種目になりがちであると、そうではなくて、スポーツの裾野を広げる意味でも、フェンシングとか西区でもこの間、アジア大会で準優勝した子がいたりとか、そんなふうにありますので、そういった夢のある人たちもいますので、マイナースポーツにも目を向けたらいいんじゃないかと。それから近年では9月初旬もすごく猛暑なので、開催時期をちょっと検討する必要があるんじゃないかと。スポーツでの交流促進の他、健康増進などに繋がれると良いという意見もありました。

裏面に行きまして、中学校が部活の地域移行が進められていますただ、体力作りにやりたい子もいれば、それを目指す子供たちもいるので、夢が途切れないような事業を今後も続けてほしいというのが主な意見でした。

今回の開催は令和5年11月6日の午後3時からとなっております。以上です。

(大谷会長)

はいありがとうございました。

続いて第3部会ですが、部会長が欠席ですので原澤副部会長にお願いするところですが、まだ到着してませんね。もう少し後にしまして、それではアートフェスティバル特別部会、高橋部会長も欠席でございますので、本日は古俣副部会長から報告をしていただきたいと思っております。

(古俣委員)

部会長がお休みということなんでご報告します。

手元の資料はアートフェスティバルの本番はですね、10月21、22日だったので、これまでにどういう準備をしていくのか、実施計画について簡単にまとめたものです。

運営実施計画についてですが、事務局より事業の準備から当日の運営について説明がありました。受付の配置等は実際の会場での準備の際に、来場者の目にとまりやすいよう、調整することとしました。進行台本について事務局から報告がありました。また、郷土芸能団体発表の各団体への質問内容等については、後日、部会員と司会者とで決めることとしました。縦看板・横看板については、郷土芸能団体発表時のステージ上の横看板デザイ

ンを決めました。最後にその他ですが、郷土芸能団体紹介コーナーに展示する各団体のパネルのサンプルも確認しました。

次の部会は11月6日に午前中に行うことになっております。はい以上でございます。

(大谷会長)

はい。ありがとうございました。山岸部会長はい。

(山岸部会長)

すいません2部会からちょっと追加させてください。皆さんのお手元に名刺サイズの毎月5の付く日があいさつDAYというものを置かせていただきました。これは2部会の方でデザインや内容を考えました。

挨拶運動をただただおはようございますっていうことではなく、何が目的で何をしているのかっていうのをわかっていただくために挨拶運動の当日にこれをお配りをさせていただきました。

この同じデザインでポスターとそれからオレンジを主体にした、なんていうんですかね、のぼり旗も当日持ちながら、開催いたしました。次もこれを活用する予定なので、皆さんもぜひこれを5のつく日はぜひ名札にでも入れてください。あいさつDAYだよって宣伝してもらえると幸いです。以上です。

(大谷会長)

はい。ありがとうございました。それでは、第3部会原澤副会長到着ですね。部会の報告をお願いいたします。

(原澤副部会長)

はい、申し訳ございませんでした。それでは第3部会の会議概要について報告させていただきます。

区の魅力発掘事業魅力発信フォトコンテストの内容について議論を行いました。

委員から出された主な意見として、前期で西区八景を選定したので、賞やリード文に取り入れるなど、八景を前面に出してはどうか。若者部門を設ける場合は、Instagramでの募集となるので、年齢の確認が困難ではないか。応募しやすく部門一般部門、若者部門などは分けない方がよいと思う。賞を競うことを重視するわけではないので、グランプリなどは設けず、賞に差は付けない方がよいと思う。といった意見がでました。

フォトコンテスト名称についてはわたしの西区自慢 フォト&エッセイに決定しました。議論の内容を案に反映し、早急に募集を開始することとしました。賞品の特産品、入賞作品の展示については次回以降議論することとしました。

また、来年度取り組む事業についても意見交換を行いました。フォトコンテストを継続して実施し、季節ごとに募集の写真を分けるなど複数回の実施にしてはどうか。西区八景のガイドマップなど八景の PR ツールを作成してはどうか。西区の魅力発信に取り組むにあたり、外部団体に提案を募集するか、第3部会で企画を考え、外部団体に実施してもらうか等、方法も今後検討する必要があるのではないかと。という意見がでましたが、詳細については次回以降議論することとしました。

令和6年度特色ある区づくり予算区役所企画事業案について担当課長より説明を受け、質疑応答と意見聴取を行いました。

住民バス利用促進事業については、主に内野から赤塚間は公共交通が不便と感じる。住民バスの利用促進に力を入れて取り組んで欲しい。住民バスの試乗について、地域住民は既にバスの存在を認識しているにも関わらず乗車率が低迷しているのであれば、試乗より現在の住民の交通手段についてアンケート調査を実施し、実態や課題を把握してはどうか。新たな移動手段の調査検討について、ライドシェア、自動運転も視野に入れた検討を進めて欲しい。といった意見がありました。

Meetup!NiigataWEST2040については、西区の大学生を中心とした若者が大勢参加してくれているので、令和6年度も応援したい。という意見がありました。

はい、以上でございますはい。

(大谷会長)

はいありがとうございました。

最後に広報紙特別部会長澤部会長お願いいたします。

(長澤部会長)

はい。広報誌特別部会の第7回です。

この本会の直前に行いまして、12月発行予定の43号の企画について打ち合わせました。その際については、次回の本会の日にはほぼ出来上がってる原稿をもとにですね、ご説明をしたいと思います。

今回の今日の会議では6名中4名出席でございました。次回が11月の22日。3時から4階の404会議室で予定しております。

以上です。

(大谷会長)

はい。ありがとうございました。

以上で全ての部会の報告は終了しましたが、全体を通して質問がございましたらお願いをいたします。

特にないようですので、議事の（２）令和6年度特色ある区づくり事業区役所企画事業に戻りたいと思います。資料2をご覧願いたいと思います。私から説明をさせていただきます。

6月の本会にて、令和6年度特色ある区づくり予算について意見聴取の依頼があり、これまで各部会を中心に議論を重ねてまいりました。今回は令和6年度特色ある区づくり予算区役所企画事業案に対する自治協議会としての意見を回答することといたします。

意見の詳細については先ほど各部部长より報告があり、資料2の別紙に記載の通りでございますが、この内容でよろしいか皆さんにお諮りをし、承認をいただければ資料2のとおり回答することといたします。

皆さんからのご意見、ご質問はございますでしょうか。いかがでしょうか。ご意見ないでしょうか。

ご異議ないということにさせていただきたいと思います。資料2の通り回答することといたします。事務局は手続きをお願いいたします。

続きまして議事の（３）支え合いの仕組み作り会議構成員の推薦についてであります。資料はございませんが、先ほど部会の状況報告にて第2部会から報告がありました通り、山岸部部长を推薦したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なしの声）

それでは異議なしということで、それでは山岸副会長、よろしくをお願いいたします。事務局は手続きをお願いいたします。

続きまして、各主管課からの報告、（１）青山小学校地域と学校ウェルカム参観日のご案内についてであります。教育支援センターよりご説明をお願いいたします。

（教育支援センター五十嵐主幹）

教育支援センターの五十嵐と申します。日頃、学校教育のご理解とご協力をいただき大変ありがとうございます。

本日は青山小学校で開催されます、地域と学校ウェルカム参観日についてご案内をさせていただきます。お手元の資料4をご覧ください。

新潟市ではコミュニティスクール事業や地域と学校パートナーシップ事業といった地域の皆様が積極的に学校教育に関わっていただけるような取り組みを行っております。その

事業の中で、例年、広く学校での取り組みを勘案していただけるよう、ウェルカム参観日実施しております。

11月20日に青山小学校で児童たちが地域の方々と活動している様子を西区の皆様に見ていただけるように学校が参観日を企画いたしました。

このチラシにあります二次元コードか電話で学校に申し込みをしていただければ、西区の方であれば誰でも参加ができます。

お住まいの地区の学校以外の授業参観する機会があまりないと思いますので、この機会にぜひ参観をしていただければと思いご紹介をさせていただきました。

続きまして、また別のチラシになるんですが、当日配布、教育シンポジウムのチラシをお配りさせていただきました。西区には別々に事業支援がございますが、少子化や幼稚園、保育園の無償化などの影響で園児の減少が課題となっております。

11月12日の土曜日になりますが、幼児教育の重要性について名古屋学芸大学の教授をお招きしての講演やパネルディスカッションを行います。

ご紹介が遅くなりまして、当日の会場が既に満員で、また申し込み期日も過ぎていることから、今回はオンラインでの参加をご案内いたします。オンライン参加を希望の方がいらっしゃいましたら西区教育支援センターへEメールをお送りください。

限定公開用のURLを返信させていただきますので、ご連絡をいただければと思います。以上2点になりますが、教育支援センターからのご案内です。よろしく願いいたします。

(大谷会長)

はい。ありがとうございます。ただいまの報告について質問がございましたらお願いいたします。

質問はないようですので、続きまして、(2)新潟雪の日辞典の発行についてであります。土木部土木総務課より説明をお願いいたします。

(土木総務課)

はい。土木総務課の中山といたします。よろしく願いいたします。本日は貴重なお時間いただきましてありがとうございます。現在ですね作成しております新しいパンフレット新潟の雪の日辞典の発行について説明させていただきます。

まずですね、パンフレットに記載がございます新潟市が進めております、大雪に関する市民広報の取り組みについて説明いたします。資料5になります。令和3年1月に新潟市内は異常降雪に見舞われました。新潟市では、このときの除雪作業について表面化した様々な課題について外部の有識者や関係団体の方から広く意見を集め、相互に共有するとともに

に、持続可能な除雪体制の改善に繋げるため、新潟市除雪体制等検証委員会を立ち上げて検証を実施しました。昨年の7月には会議検証会議による最終取りまとめが行われ除排雪の効率化、市民広報の積極的な展開、PDCAサイクルの構築の三つを柱とする提言書が提出されたところです。

その中の市民広報の積極的な展開としまして大雪が災害であるということの理解、浸透を図ること、大雪時の行動変容を促すこと、除雪体制の市民周知を図ることとしており、これらに基づき昨年度より様々な取り組みを行っています。

除雪時につきましては、大雪は災害であるというところの理解浸透、除雪体制の市民周知を図るため各種媒体を活用した広報活動などを実施しています。

また降雪時には日頃から大雪のときの備えですとか最新の情報を確認できるように、促すためにですね、ホームページ内に各種情報を集約した特設ページを見て設置する他、個別の状況に応じて不要不急の外出抑制などについてSNSやホームページを通じて情報発信を行っております。

今回紹介します新潟雪の日辞典、こちらは大雪に関する市民広報の取り組みとして新たに作成し、発行するものになります。

次ページを見ていただきますとホチキス止めですねパンフレットがあるかと思えます。こちらにつきましては、現在作成中ですので若干の修正があることをあらかじめご了承ください。

今回の皆さんちょっと見ながら聞いていただきたいんですが、今回のパンフレットにつきましては三つのポイントに着目をして編集しています。

一つ目はこれまでに発行した新潟雪道ガイド、大雪は災害の内容を踏襲しまして、新たにですね、自助・共助・公助の視点を加えて整理したものになっています。

2点目はこれまでの広報につきましては道路の除雪に関するお願いや、お知らせ、そういったものを中心とした内容になっておりますが、今回ですね、新たに市民の皆様へのお役立ち情報としまして大雪への備えですとか、水道管の凍結、ゴミの収集など昨年大雪にですね、いろいろ市民の方から問い合わせがあった、ライフラインに関する記載を重視させております。

三つ目はSNSを活用したプッシュ型の広報を推進するため公式LINEなどへの登録を促す狙いを追加したとなっております。外出時にですね、大雪に巻き込まれた際など、そういうときにスマートフォンなどモバイル端末から情報を入手しやすくなっていますよ、というふうな取り組みになっています。皆様どうぞご活用いただければと思います。

これらに加えてましてそうですね、初めて新潟に来た方でも理解できるよう配慮しており、また地域の除雪活動についても紹介したところになっています。こちらのパンフレットにつきましては内容の更新、情報の追加を行いながら、毎年発行していきたいというふうに考えております。

最後になりますがこちらのパンフレットにつきましては11月の中旬より自治会を通じまして、各ご家庭に全戸配布をお願いしたいと考えておりますので、お手数おかけしますが、ご理解とご協力の方よろしくをお願いいたします。

以上で新潟市雪の日辞典の発行について説明を終わります。

(大谷会長)

はい。ありがとうございました。質問事項はございませんでしょうか。

はい。長澤委員。

(長澤委員)

大雪に関する市民広報の取り組みの資料、提言の3本柱の3番目、PDCAサイクルの構築ってというのはどういうことなのかちょっとわからないので、ご説明をいただければと思います。

(土木総務課)

はい。ご質問ありがとうございます。

PDCAサイクルがまだなかなか聞きなれないところもあるかと思うんですが、まず除雪の体制に入ります、除雪をするというところで、基本的にはその実績といいますか、成果も出てきます。それが、正しくできたかどうか、ちょっと工夫できたところがあったんじゃないかというところをですね、再度検証しまして、それに基づいて計画を練り直し、それを除雪体制に繋げていく、それを繰り返すことですね、毎年より良くなって改善していくというような構築をしてですね、進めていきたいというものになっています。

(長澤委員)

はい。わかりました。ありがとうございました。

(大谷会長)

せっかくの機会ですが、他にございますか。よろしいですか。ないようですのでどうも説明ありがとうございました。

続きまして、その他の(1)、令和5年度自治協議会全体委員研修会の記録についてであります。事務局より説明をお願いします。

(高山地域課長)

私の方から説明をさせていただきます資料6をご覧ください。

自治協議会全体委員研修会の記録についてでございます。9月5日に開催されました全体議員研修会の開催概要、各分科会における意見交換ワークシートの記載内容、研修後のアンケート結果などをまとめた資料でございます。

前回の本会では速報版を配布させていただきましたが、今回配布したものは確定版となります。本日は全体研修会を企画しました市民協働課が欠席のため、資料の配布のみとさせていただきますが、内容につきましては皆さんの方で後ほどご確認いただければと思いますので、簡単ではございますが説明は以上となります。

(大谷会長)

はい。ありがとうございました。報告にもあります通り、質疑応答は省略させていただきます。

続きましてその他(2)シカを目撃情報についてであります。区民生活課より説明をお願いいたします。

(治田区民生活課長)

皆様お疲れ様です。もう少しだけお付き合いください。区民生活課の治田と申します。

それでは資料7をご覧ください。10月19日、四ツ興野地区内でシカと思われる個体の目撃情報がありました。

裏面の位置図をご覧ください。シカにつきましては星印のマークになります。四ツ興野ですので、西蒲区の境界近くになります。

表に戻っていただけますでしょうか。イノシシにつきましては、この資料を作成した時点5月30日以降目撃情報はありませんでした。先週金曜日27日に内野上新町地区区内で畑の中でイノシシと思われる足跡の目撃情報がございました。春先から市内各区でのイノシシやシカが目撃情報が続いております。幸い西区ではまだあまり頻発していませんが再度注意喚起をさせていただきたいと思っております。

2にイノシシとシカの特性を記載しております。イノシシもシカも本来は警戒心の強い動物ですが、一旦慣れると大胆に行動する凶太さもあります。また、昼夜を問わず餌を求めて活動します。

シカは例年、10月から11月の繁殖期になると、夕方から早朝にかけて活発に動き回るよう。昨年11月に402号線を車で走行中にシカと接触したという市民からの通報もありました。シカの蹄は道路では滑りやすくなっています。機敏に逃げることができず、車を避けよ

うとして転倒することがあるそうです。日没や夜明けの前後は特に402号線を通られる方はご注意ください。

すみません、3に特にご注意くださいたいことを記載しておりますので、後ほどご確認ください。イノシシやシカに出会ってしまった場合には、大きな声を出さずに静かにその場を離れるようにしてください。学習能力が優れているイノシシは、一度覚えた食べ物の味に執着し餌があった場所に再度出沒することがありますので、餌となる生ゴミや野菜くずなどを放置しないようお願いいたします。ペットフードの屋外放置も餌付けになるそうです。

最後に注意事項を守っていただくことと、個体の目撃情報がありましたら、区役所または西警察署に連絡をお願いいたします。

以上で区民生活課からの報告を終わります。ありがとうございました。

(大谷会長)

はい。ありがとうございました。ただいまの報告について質問はいかがでしょうか。

はい。古侯委員ちょっとお待ちくださいマイクを持参いたします。

(古侯委員)

西コミ協の古侯です。新潟市さんの方はイノシシとか、なんか最近はクマ、この辺は出ないと思うんですけど、シカというのはこれやっぱり害獣の部類に入れておるんですね、それとも、ハクビシンとかね、ああいうのと同じ類で考えておられるのか、それとも一般の保護をするべき動物っていうふうに捉えてるのでしょうか。

(治田区民生活課長)

はい。ありがとうございます野生獣類としてイノシシ、猿なども同じように捉えております。

(古侯委員)

ちなみにうちにはキツネも来ました。

(大谷会長)

はい。他にいかがでしょうか。ないようですので、続きまして次第の6副市長との意見交換に移りたいと思います。

本日は朝妻副市長が出席しておりますので、意見交換をこれから行いたいと思います。朝妻副市長、よろしくようお願いいたします。

ご意見、ご質問のある委員の方に挙手をお願い致すところですが、まずは私から提案させていただきます、その後、委員の皆さんから積極的にご発言をいただきたいと、そのように思っております。

それでは黒埼南ふれあい協議会の会長をしております、1号委員の大谷と申します。私どもの西区は都市部と農村部の共存によって成り立っております。

また農業分野では稲作を主体にして、黒埼茶豆やいもジェンヌ、八色すいかなど、様々な農産品で発給を停止するような一面もございますが、農村地域の生々しい現状を申し上げますので副市長様の御見解をお伺いしたいと思います。

まず最初に、農村地域では、圃場整備や農地集約の問題が大きな課題となっております。国県市の補助事業で推進しますと各地域の順番もございまして、10年単位、それ以上の時間を要するという問題がネックとなっております。

それに加えて、農業従事者の高齢化の問題がございます。機械化農業は高齢者では対応できますが、農村地域の高齢化率は40%を超える地域も増えてまいりました。10年後には2人に1人が高齢者となるこの現実。農業後継者不在の問題を一段と危機感を増しております。

ある農家さんの話ですが、せがれに農業をやってほしいとはとても言えないと。農家の収入はたかが知れている上に、機械貧乏に追われていると俸の収入に遥かに及ばないし、それと農作業はきついとこのように嘆いております。

また高齢化によって担保を委託しなければならないのかも増えつつあります。耕作放棄地も年々増加の一途をたどっております。古き良き時代は田んぼ2、3枚手放せば御殿ができると言われた時代もございましたが、現在は田んぼの売買は成立しない状況で離農もままならない状況であります。

農家の農業法人化を積極的に誘導して、大規模化を目指せないものでしょうか。副市長様のご見解をお伺いしていきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

(朝妻副市長)

はい。農業問題ということでございますけれども、まず最初に直面している課題のことについてちょっと最初に申し上げますと、今年の夏の猛暑によりまして、農作物の影響というか被害というのがいろんなところに出ているということでございますが、例えば米で言えば等級が低下をしている、減収になる。これについては、収入保険ですとか共済で一定程度補填されるということなわけですけれども、これにつきましては保険への加入の促

進ですとか、先週の金曜日に公表させていただきましたけど、そういう取り組みをやりたいというふうに思っているところがございます。

それから冒頭申し上げたその国の経済対策の中で地方に対する交付金が増額っていうような話もございますのでそれを受けて、県の方でもその農業政策ですね、そのいろんな課題に対する今考えてるというふうなお話をお聞きをしておりますので、その辺も合わせながらですね、市としてできることを考えていきたいと思いますが、やっぱり基本的にやっぱり、来年の作付けに向けてモチベーションが下がらないということがまず大事なんじゃないのかなというふうに思います。将来的な例で言えば、昨日も会議をやられてたみたいですけど、今年の異常事態ではなくてこれが普通の状態になるということを前提した場合は品種改良とかですね、あるいは一等米だったということなので、そこの結果だとかっていうような議論になっているのかなという感じはしておりますけれども、そのときできることは対応させていただきたいというのが、直面する課題についてでございます。

もう一つご指摘があった構造的な課題というかですねそれにつきましては同じようにやっぱり強い危機感はやっぱり抱いております。コロナ禍になりましてですね国境の壁が高くなったもんですから、いわゆるその食料自給率の問題とかっていうのがまた意識されるようになってきているので、農業をどうやって実施していくのかっていうのは非常に大きな問題だと思うんですけども、ご指摘のあったように若い世代に繋ぐためにはですね、基本的には儲からないと当然やっていただけないわけなので、そこのところをどうやって具現化するかっていうことだと思うんですけども、おっしゃったようなスケールメリットをですね、特に米なんかはそうだと思うんですけども、大規模化をすると、集積が修正集約化をして大規模な生産体制にするっていうことが必要だと、そのためにはということで補助整備が必要だということで現状例えばその電力の関係とかってことになると、ご指摘があったようにですね、10年かかってしまうとかですね、順番がなかなか回ってこないというようなことがありますので、これは他の方からもご要望はいただいているんですけども、簡易な補助制度ですね、その支援制度、今でもちょっとあるんですけど、それを何かなんていうか、強化するとか、そういうことができないからっていうので今ちょっと議論しているところです。

それからもう一つは米依存から脱却するという絵の転換ということでこれは県の産地化の取り組みをいろいろ進められておりますけれども、最近で言うとその報道に出てきた南浜のハウスメロンがありましたけどもああいう格好でですね、付加価値の高いものを入れてる規模でもってですね生産していただくというようなことは必要なんだろうなと思いま

すし、これも先ほど言ったその補助整備というかですねそれとの関係もちょっとあるの  
で、合わせてですね、考えていけたらなと思います。

新しい話としてはですね脱炭素でのJクレジットっていうのが出ます以前ですとなかご  
して水を抜く期間があるわけですけど、それを1週間延ばすとですね、メタンのガスを3  
0%抑制されるということで、その効果が売買の対象になるという仕組みを作られましてそ  
れのプレイヤーをですね商社ですとかを今探してるみたいな感じになっています。これも  
のすごいざっくりした試算したみたいですけど、新潟でやった場合には単あたり3000ぐら  
いですね取引価格になるということになりますと、普通に例えば我々が今までやってきた  
転作の奨励金の水準よりちょっと高かったりするもんですから、今のその水田を使いつつ  
ですね、手取りが増える仕組みっていうんですかねそういうようなことも考えられている  
ので、これも来年度に向けてちょっと検討ができればなというふうに思ってるところでご  
ざいます。

いずれにしても一つの何か方策でですね、この危機的な状況が改善されるっていうかな  
かなか難しいものがありますのでいろいろ多面的な取り組みを進める必要があるんだらう  
なと思います。原点はやっぱり一つの産業だということです。そういった面から考えてい  
くということになるんじゃないかなというふうに思っております。

すいません、私は以上でございます。

(大谷会長)

はい。ご丁寧にご回答いただきましてありがとうございます。それでは委員の皆様挙  
手をお願いいたします。

はい。岩沢委員。

(岩沢委員)

五十嵐小学校区コミ協の岩沢です。

私の方は海岸沿いでありまして、先ほど言いましたようにゴミの問題については、いろ  
いろやってるんですが、学校の生徒や我々の地域、原澤さんもよくやってくれています  
が、飛砂でありますけども、コスポの左側の方は廃棄物の関係道路がしっかりするんです  
けど、右の方がですね、除砂をやるんですけどね、翌年また積もっている。

そんなようなことで、この飛砂対策についてももちろん県市こちらの建設課にもやってい  
ただいておるんですけども、もうちょっと早くできるような方法はないだろうかと思いま  
してお願いでございます。よろしく申し上げます。

(朝妻副市長)

はい。飛砂対策についてはこれまでも飛砂防止策を作ったりとかっていうことで取り組んできたところですけども、それなりのその効果はですね、かつてと比べればある程度出ているかなと思いますけれども、やはりきりが無いという感じですね。そういうことの繰り返しなわけですけども、今回区の方の予算の中でですね法的な解釈も含めて議論するというような取り組みを進めておりますので、成果を活かしつつですね、考えていきたいなと思いますけれども、いわゆる生活環境の問題ということだけではなくて、やっぱり海岸はですね観光の資源でもあるわけなので、そういう目で見たとときにやはり相当おそらく課題が多いというふうに思わざるを得ないというふうには認識をしておりますので、なかなかなんていうか完全に解決を見てですね終わるってことはまずないかもしれませんが、着実に歩みを進められるようにして取り組んでいきますので、お願いいたします。よろしく  
お願いいたします。

(大谷会長)

はい。ありがとうございます。続いてどなたかお願いいたします。

はい。山岸委員

(山岸委員)

はい。2部会部長で西内野小学校でコーディネーターしております、山岸と申します。副市長の先ほどの挨拶の中で、少子化対策とか人口減少というキーワードが出ました。非常に重い問題だと思っていて、子供が生まれないからやっぱりどんどん人口が減っていくわけで、でも学校とか地域で現実を見ると、これ社会が必要としているのかなと社会が危機感を持って少子化対策、少子化に対しての危機感を持ってかなって思うところも節々にありまして、ラジオ体操をやればうるさいって言われたり、公園も小さいからボールを蹴ったりするとすぐ隣のうちに突っ込んでしまったり、思いっきり遊ぶこともできない子供たちの状況を見ている中で、親はアンケートを新潟市の確かこれが子育ての方のアンケートでは産みたい子供の数と産める子供の数に乖離があって、そんなような勿体ない状況の中で、やっぱり選ばれる新潟市とか、子どもまんなかの新潟市を今目指しているんで、ぜひとも本当に地域としても協力したいし、将来ある子供たちを健やかに育てたいので、もう本当に本気なんでしょうけど、ちょっと目線を変えたやり方なのかわかりません何が一番良いのかわかりませんけれども、子供たちの育ちとか、それから親が安心して産めるような社会をちょっと新潟市目指していただけると非常にありがたいなと思って意見させていただきました。以上です。

(朝妻副市長)

はい。冒頭申し上げたように国の方では年内を目標に少子化対策等々の全体をまとめるという話になってますけれども、ご案内のとおり、いわゆる義務教育、文化省が所管する義務教育がその中には入っていないというようなこともあってですね、いわゆる経済的な支援、児童手当の拡充するとかあるいはその子育て環境の問題ですね。

育休産休を取りやすくするとかですね、男性の育休率上げるとかそういう周辺というところであれですけどそういったところの評価というのは相当多分されるんだろうなというふうに思ってますが、冒頭申し上げたように言っていました子どもまんなかと言ってる割には、その子供自身の成長だとか、子供が真ん中にあるそこに対する何か取り組みっていうんですかね、アプローチの仕方ってのはちょっとどうしてもないような気がしていて、今来年度予算の議論を進めてるっていうふうに申し上げましたけど、教育委員会なんかも含めてですね、そういうところで何か私の中で独自のやつが出せればいいなというような議論をしているところです。

地域の皆さんのご協力というのは、例えばコミュニティスクールですか、取り組みとかを見せていただくと、やっぱり距離感ですかね非常に近いところっていうのは、非常にうまくいっていて、ただそれは今現在それをやっていただいている世代の方がいらっしゃるという前提が一つと、もう一つ今度もっと人口減ってて損になっていくわけなので、今の単位だと多分この小さすぎるというかですね、小さくなるんだろうなっていうのが今度はもうちょっと広げたお隣と何か一緒にやるみたいなことを進めていかないとうまくいかないかなっていうようなことを考えたりなんかしていますが、多分それぞれのところ取り組みというか、それぞれの地域の事情に合ったやり方ってのも当然あると思うので、そういう議論をさせていただければなというふうに思います。よろしくお願いします。

(山岸委員)

ありがとうございました。

(大谷会長)

はい。他に、はい、副会長。

(風間副会長)

はい。東青山コミ協の会長を仰せつかっております風間と申します。

2点あります。1点は、先ほど大谷会長からお話がありました中での、耕作放棄地のことなんですけど、2年ほど前に前笠原区長さんから、確か本会の席で、そのときの状況を聞いた記憶があるんですけども、今日そういう資料がなければ後日で結構なんですけど、西区全体の農地の中で、今現在、耕作方式は、例えば何ヘクタールとかですね、そういう何

か資料がありましたらお聞きしたいと思いますし、それから耕作放棄地の改善とか、そういったものがどういうふうになってるかというようなことがまた資料がありましたら、私ももう本当に古くは農家の長男なもんですから、農業に対して今農業やっておりませんが、そういうことについてもやっぱりとても大切なことだし区のとらえ方としては、西区は学園都市というそういう捉え方を私は耳にしておりますので、そういう意味でも農業はとても大切だと思います。

先ほども儲かる農業というお話もありましたけれども、その辺もとても良い機械とか、そういう資金が大変かかることもありますので、それはちょっと今できませんけど、耕作放棄のことについて、後日で結構ですので何か資料をいただければありがたいと思います。

それからもう一点は、豪雪のことですよね大雪は災害であるという先ほどそういうし発表もありましたけれども、例えば私が日常的に困るなと思うのは、旧116から越後線の間でもそういう土地があると思います。あの昔からの土地で、例えば元堀だったのかだからわかりませんが4mぐらいの道路があちこちこうね、散在してるっていいですか、そういうところが大雪になった場合は、自治会の方は大変困ってると思います自治会でそういうところを例えば一同になってない場合はね、なかなか雪の降雪状況によっては除雪車が入りませんから、自治会、あるいは複数の自治会でお願いして費用を負担するとかそういうことが実際に生じると思います。

だから結局、もともとは整備してから住宅を販売するとかそういうことはいいと思うんですけど、昔のそういうところの道路を、今後どういうふうにしていくかということが除雪にとっても関係してくると思いますので、考えていらっしゃるがありましたら教えていただきたいなど、その2点でございます。よろしく願いいたします。

(石附農政商工課長)

すいません、耕作放棄地などご質問いただきありがとうございます。資料を今持ってきてないので後日お届けしたいと思います、あの区づくり事業で耕作放棄地未然防止というものをやっております。区の独自の事業でして耕作放棄地というふうに農業委員会が認定する前の段階で地域の例えば農家組合の方とか自治会の方からここが耕作放棄地になりそうだとこのころにそれを解消するために取り組んでいただく皆さんに補助金を出すという事業をやっておりますしてそれによって2年間、令和3年4年で2.1ヘクタールぐらいの耕作放棄地の未然防止ができたというふうなことでございます。

西区に関しては、そのような取り組みを含めまして、年々耕作放棄地、減少していますが、すいません今面積がすぐでなくて、後日お届けしたいと思います。よろしくお願ひします。

(朝妻副市長)

すいません、先ほどのその説明ありました雪の辞典ってありますけどその自助・共助・公助ですかねそういう取り組みの中でというわけですが、おっしゃるように、環境によってはですね、そう言われてもというのは当然あるとうのは重々承知をしておりますので、どれだけそのきめ細かくできるのかっていうのはちょっとありますけれどもその辺のご意見を踏まえてですね、また議論を進めていきたいなというふうに思います。よろしくお願ひします。

(大谷会長)

他にいかがでしょうか。事務局、副市長との懇談は、時間はどのぐらい取ってあるんですか。20分程度です、もうそろそろ。それではあとお一方、お願ひしたいんですが、いかがでしょうか。せつかくの機会ですので、はい。

(長澤委員)

3号委員の長澤です。

新潟交通のバスの減便といいますか、また路線を廃止するというようなことが大変話題になっておりまして、先般市長がテレビでちょっと発表されてらっしゃった中でこれから新潟駅の改修が完了して古町から万代橋を通過して、駅を抜けて、南口の方へそのまま出る道ができ、なおかつ古町を再開発することによって企業誘致をして、そこで南北は人の移動をする形を作って、バスの利用も促進するというお話がありましたけど、新潟市全体を見てどういうふうにあの構想が新潟市の方でお持ちなのか、以前BRT構想があって立ち切れという構想がなくなったんでしょうかあれですけど、バスに代わるものを何か別にお考えなのか、その辺その将来のビジョン総合計画ですか中でどんなふううたってるのかお聞かせいただきたいと思います。

(朝妻副市長)

はい。いわゆる公共交通のあり方については今地域公共交通計画を策定している段階でして、今年度末に一応出来上がることとなります。

お話があった路線バスについてはいろいろ新潟交通と協議をすすめています。我々としては当然可能な限りですね、バス路線の維持をお願ひしたいというふうにお話をさせていただいておりますが、ご案内の通り、バスの運転手不足っていうのは全国的な課題に

もなっていてですねそれでこっちも例外ではなくて、いわゆる退職していかれる運転手さんの補充が完全にできてないので、年々減ってきているということになります。来年度からさらに運転者の労働条件の問題があって、物流の関係もそうですけども、非常に厳しくなるとかですね、ちゃんと休まなきゃいけないみたいな感じになるので、どうしてもさらにさらに厳しくなるという状況だと思います。

なので、いわゆる路線バス事業から撤退する会社ってのはもう大阪なんか出てきてますし、自治体としても交通局を持ってですね市営バスとか持っているところもあるんですけども、そういうところも状況は同じですので、市がやってるからって減便とか全然起きてないとかそんなことはないというのが全国的な事例としてはあります。

そういう中で、交通としてはですね、できることはできる範囲のことは絶対それはやるということなわけですけども、それが現実的にどういう予算のやり方になっていくのかっていうのは、今のご紹介のあった南北の路線をどうやって払うかっていう議論をメインに今やっていますけどそこは交通にとってもいわゆる一つの商品としてはですね、有力なものですし、ビジネスチャンスだというふうに考えているのでそれを目にしてどういう線を入れるかっていうことを今詰めているところであります。

それでいわゆる周辺部に行ったときのいわゆる減便とかですね廃止になったときのその代替というのは今では北区でやっていますけどバスタクシーとミックスするとかですねあるいは社会福祉法人のバスを借りて地域が運行するとか、やり方はいろいろ工夫を重ねて各団体でやっていたり本市でもやっていたりとかしますので、そういう方法が必ずしもなんていうんすかね、路線バスだけではないというか、他の方法を考えないとその公共交通のネットワークが維持できないということになっていくというのは多分その傾向としてはそういうことなんだなと思います。その中でどういう工夫ができるかっていうのをですね、模索をしていたということで、これは本当に全国的な課題だと思います。大きい例えば神戸とか広島とかそういう政令市も同じですので状況は、極力ですね足を確保するっていうのは公共としての役目だという思っていますので、そういう方向感では考えていきたいと思えますけれども、状況は非常に厳しいんだということですね、あの方一方でご理解いただければありがたいなというふうに思います。

(大谷会長)

よろしいですか。はい、時間も参りましたので、ここで意見交換は終了したいと思います。朝妻副市長様ありがとうございました。

他にその他、委員の皆様からお知らせはございませんでしょうか。最後に事務局からの連絡ありでしょうか。はい、ちょっと待ってください。

(長澤委員)

はい、すいませんちょっと事務局の方から話があるかもしれないんですが、11月の18日、防災講演会や予定されております広報でこの講演会について取り上げて記事を載せる予定にしておりますが、今現在申し込みの状況というのはどうなっておりますか。

(事務局)

200人の定員に対して40人くらいの参加です。

(長澤委員)

というあの状況でございまして申し込みが11月の10日まで申し込みができますので、ぜひこの講演会の前回のあの講演の内容からいろいろ考えますと、各町内会の会長さんにもぜひ参加をしてですね講演をお聞きいただければと思いますので、各コミ長の代表の皆様各町内会のですね会長さん等に改めてこの講演会のご案内をしていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

(司 会)

チラシを配布させていただきましたが、今お話のあったこのネットでの申し込みということとさせていたただいたんですが今のところまだ20名ほどの申し込みしかないということで、今日配付させていただいたのは名前を書いてFAXで区役所の方に送っていただいても構わないのでちょっと用意させていただきました。委員の皆様からご家族、友人、職場の関係者でもいいのでちょっと興味のある方に書いもらい、申し込んでいただければと思います。

あと自治協の委員の皆様に関しましてはこの自治協の提案事業ということですので事前申し込みは不要ということになってますので、当日はぜひとも皆様ご出席の方お願いできればと思います。

もう1点お願いします。今日机の上に置かせていただきましたが、もう一つすいません、お願いで西区の小正月に行われる昔ながらの行事イベントについて（情報提供のお願い）というのを置かせていただきました。すいませんこちらからお願いなんですけど地域課の広報広聴担当で、今この西区のお正月辺りに行われる行事イベントについて今、情報の収集を行ってます。つきましては委員の皆様、特に地域の代表でいらっしゃいます1号委員の皆様中心に1月5日から15日ごろ、西区の中で地域で行われているイベントについてご存じなものがありましたら、情報をお寄せいただければと思います。

この紙が回答書になっておりますのでご記入いただいでできれば11月7日頃までにご提出、そのころの11月の初めの皆様部会の際に持ってきていただいても構いませんが、お願いしたいと思います。急なお願いになりますけども小さな行事とても構いませんので、そこの地域でこんなことやってるよっていう情報があれば教えていただければと思います。

区役所だよりも限らず、今ではSNS等でも情報発信していきます。なかなか冬期の期間の情報というのも少なく、そういう小さなものでも、情報いただければと今後のこちらの方の広報としても助かりますので、すいませんご協力をお願いいたします。

最後になりますけども、次回の会議の開催日についてのご連絡をさせていただきたいと思ひます。次回、第7回になります西区自治協議会は、11月29日水曜日午後3時からでございます。会場は、本日と同じ西区役所健康センター棟1階大会議室になります。

会議の議題につきましては、運営会議と調整させていただき、改めて皆様へご案内させていただきますたいと思ひます。事務局からは以上になります。

(大谷会長)

はい、ありがとうございます。それではこれで令和5年度第6回西区自治協議会を閉会といたします。

お疲れ様でございました。ありがとうございます。